

シカ研究で若手農林水産研究者表彰を受賞

北海道支所の松浦友紀子研究員は「ニホンシカの食品資源化に向けた衛生管理手法に関する研究」で、平成 26 年度若手農林水産研究者表彰（農林水産省主催）を受賞しました。

受賞式は 11 月 12 日、森林総合研究所鈴木理事長ほか、多数の関係者の出席のもと東京ビッグサイトで行われ、他の 4 名の受賞者とともに表彰状が授与されました。本賞の受賞は本支所含めて森林総研からは初となります。

松浦研究員は、日本各地で激増し大きな林業・森林被害をもたらしているニホンシカについて、その有効な狩猟方法と、捕獲したシカを森林資源として衛生的に利用する方法を研究しています。またハンターとしての長い経験を活かし、女性のハンターグループを組織するなど、正しい狩猟法やシカ肉の利用法の普及にも熱心に取り組んできました。今回の表彰も、研究業績とともに、こうした成果の普及や社会還元が高く評価されたものです。



松浦研究員（前列中央）、鈴木理事長（後列中央）



松浦研究員（右）と牧野北海道支所長